

重点取組分野	平成28年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①校内授業研や小中一貫教育推進ブロックにおいて積極的に授業公開し、「分ける授業」を目指します。②学年全体を少人数学級にして、より個に応じた授業を展開します。③学期末に生徒による授業評価を実施し、集計結果をもとにしながら授業改善を行います。	①5年次以下の教員に対して指導主事を招聘して校内授業研究をおこなった。小中交流を3回行い教科・領域・児童生徒指導について理解を深めた。②第一学年を3から4クラスの少人数に編成して、よりきめの細かい授業を展開した。③生徒による授業評価を学期ごと実施して、授業力向上に向けて取り組んだ。	A
豊かな心	①子ども会議のテーマを基に人権について話し合い、いじめのない学校を目指します。②地域行事への参加率を上げ、保護者・地域等様々な方々と積極的にふれあう機会を設けます。③校内外で気持ちのよい挨拶ができるよう、生徒会を中心にあいさつ運動を行います。	①いじめ防止にむけて、研修会を実施して未然防止に努めた。②ジュニアリーダー制度をフルに活用し、地域活動に積極的に参加している。また、ふれあい祭りにもボランティアとして進んで参加した。③生徒会役員を中心に地域へ出かけあいさつ運動をおこなった。	B
健やかな体	①新体力テストの結果を基に、体力向上に向けて生徒一人ひとりの目標を定め、実践します。②一校一実践運動では日々の部活動や体育大会での演技を通して、体力の向上を図ります。③学校保健委員会(PTA学習会)等において、健康の保持増進に関する取組を行います。	①体育科で新体力テストの結果を基に体づくり運動を積極的に取り入れた。②部活動オリエンテーションを開くなど部活動加入を積極的に推進した。体育大会などを通し、運動の大切さや楽しさを味わうことができた。③今年の学校保健委員会では、思春期について生徒からのアンケートを基に分析発表をおこなった。	B
教育課程	①教育課程委員会において、すべての教育活動の点検見直しを行います。②特に、宿泊行事の振り返りを行い、次期3年間を見通した取組を行います。③教科指導におけるアクティブラーニングの研修を行い授業効果を高めます。④今年度の本校のキーワードは「アクティブラーニングとグローバルスタンダード」の2つを掲げ、取り組んできた。	①教育課程委員会の検討事項を7つの分野に分けてそれぞれ点検改善に取り組んだ。②宿泊行事については、航空機を利用したの修学旅行も次年度で3年目になることから、もう少しテーマを集めて検討することにした。③今年度の本校のキーワードは「アクティブラーニングとグローバルスタンダード」の2つを掲げ、取り組んできた。	B
特別支援教育	①特別支援教育委員会の定期開催と内容の充実を図り、配慮を要する生徒に対する理解を深めます。②カウンセラーや区役所等の関係機関と定期的な連絡を取りながら、適切な支援方法を探ります。③ユニバーサルデザインに関する研修を行い、職員での理解を深め実行します。	①特別支援教育委員会の定期開催と内容の充実を図り、配慮を要する生徒に対する理解を深めます。②カウンセラーや区役所等の関係機関と定期的な連絡を取りながら、適切な支援方法を探ります。③ユニバーサルデザインに関する研修を行い、職員での理解を深め実行します。	A
教育環境整備	①職員室の情報機器を活用し、職員の情報共有化を図ります。②特別支援教室(ボラ級)の設置や図書室の放課後の活用の充実を行います。③正門にある劣化した壁面を新たに制作します。④校内の掲示物等を生徒会と連携しながら見直します。	①職員室にグループワーク(ミラ임)などの条件整備をおこない、事務の効率化を図ってきた。②スタジオを整備して特別支援教室(ボラ級)を設置した。放課後における学校司書の勤務体系により活用が十分でなかった。③掲示物等については広報委員会の活動としてよくできた。	B
地域連携	①PTAと学校地域コーディネーターの協力を得て「ふれあい祭り」の工夫・拡充を図ります。②同窓会の協力を得て職場体験の事業所の開拓を図ります。③地域防災拠点として、避難所等における中学生の人的資源を模索します。	①ふれあい祭りでは、PTAと学校地域コーディネーターの協力体制ができた。②職場体験などの事業所開拓に同窓会は大いに貢献した。③防災教育については、修学旅行の学習と絡め区役所や消防署などに協力していただき地域防災拠点校としての役割など実習をおこなった。	A
人材育成・組織運営	①基本的には、OJTで人材育成を行います。②メンターチームの研修を今後も継続して経験の浅い職員を育成を図ります。③外部指導者を積極的に活用し、研究授業、校内研修を意図的、計画的に実施しながら、教師力の向上を目指します。④各グループリーダー・サブリーダーの下、組織の活性化を図り、チーム力を高めます。	①人材育成はOJTが基本と考え、日々の業務の中で経験していくことで学ばせた。②メンターチームの会合を定期的に行い、身近な課題を取り上げ若手の人材育成をおこなった。③校内の研修には必ず指導主事を招聘し、教師力向上を図った。④チーム力の向上は、リーダーの指導力がポイントである。そのため打ち合わせを日々おこなってきた。	B
ブロック内相互評価後の気付き	・年間3回の小中交流を行う中、相互の意見交換等で教科に関すること、領域に関すること、児童生徒理解に関することなど多岐にわたり相互評価をできた。特に授業に関することについては、授業内容の継続性についてとても参考になった。また、人権教育や道徳授業力向上に関することについては、授業研究を行い研究協議では貴重な意見交換ができた。・教務主任会を開催し、次年度に向けてお互いの行事のすり合わせをおこなった。		
学校関係者評価	・ジュニアリーダー制度はとても評判がよいので、今後も地域での中学生のお手伝いをお願いしたい。特に、地区運動会に参加してほしい。災害時は高齢者が多いため中学生の力を借りたい(非常食等の運搬)。・不登校生徒の支援や障害者に対する教育に力を注いでほしい。・あいさつをよくしており、地域での生徒の評判はとても良い。		
学校経営中期取組目標振り返り	・教育相談や学習相談等の相談活動の充実については、時間確保を行い、個に応じた取組を行ってきた。よさや可能性を生かした学習指導の充実については、指導と評価の一体化の研修を行い、その実践に努めてきた。特に少人数学級編成により、一人ひとりに対してよりきめの細かい指導を行うことができた。・体験的な活動の中で、自尊心を高め相手を思いやる心を育ててきた		

重点取組分野	平成29年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①校内授業研や小中一貫教育推進ブロックにおいて積極的に授業公開し、「分ける授業」を目指します。②第2学年全体を少人数学級にして、より個に応じた授業を展開します。③学期末に生徒による授業評価を実施し、集計結果をもとにしながら授業改善を行います。	①三年目研修や人材育成研修等の一環として5人の教員が外部講師を招き、公開授業研究を実施。③併せて学校全体で生徒が授業評価を行うなど授業改善に向けた取組が進んでいる。また、②学年全体で少人数学級を行い一定の成果を上げているため、次年度も継続させたい。	A
豊かな心	①子ども会議のテーマを基に人権について話し合い、いじめのない学校を目指します。②地域行事への参加率を上げ、保護者・地域等様々な方々と積極的にふれあう機会を設けます。③校内外で気持ちのよい挨拶ができるよう、生徒会を中心にあいさつ運動を行います。	①生徒会が中心となって健全な生徒集団が形成されており、いじめ事案は減少しているもののゼロではないため引き続き努力が必要である。②特に、異年齢者との接触は、多様な価値観や柔軟に受け入れる力を育む大切な機会であるため、継続したい。③挨拶運動拡充を図りたい。	B
健やかな体	①新体力テストの結果を基に、体力向上に向けて生徒一人ひとりの目標を定め、実践します。②一校一実践運動では日々の部活動や体育大会での演技を通して、体力の向上を図ります。③学校保健委員会(PTA学習会)等において、健康の保持増進に関する取組を行います。	①日々の体育の授業や部活動などで、一人ひとりの状況に応じた目標設定を行い実践した。②また、体育大会については、準備段階を重視し、予行練習などにしっかりと時間をかけるなど、運動量を増やす工夫を行った。	B
教育課程	①教育課程委員会において、すべての教育活動の点検見直しを行います。②特に、宿泊行事の振り返りを行い、次期3年間を見通した取組を行います。③教科指導における主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)の研修を行い授業効果をさらに高めます。④今年度の本校のキーワードは「アクティブラーニングとグローバルスタンダード」の2つを掲げ、取り組んできた。	①1年次から3年次宿泊行事全体を見直し、目的地や内容・時期などについて再構築を行い、新1年から移行させる。特に、グローバル人材育成の視点から日本文化や横濱とのつながりを重視した改善を行った。③主体的・対話的で深い学びの取組を進めるにあたり、時間確保の観点から学校組織の再編を行った。	A
特別支援教育	①特別支援教育委員会の定期開催と内容の充実を図り、配慮を要する生徒に対する理解を深めます。②カウンセラーや区役所等の関係機関と定期的な連絡を取りながら、適切な支援方法を探ります。③ユニバーサルデザインに関する研修を行い、職員での理解を深め実行します。	①特別支援教育委員会を中心に、支援体制の再構築が進んだ。②また、外部関係機関との連携が進み、役割や専門性を生かした支援体制を組み立てることができるようになった。③ユニバーサルデザインに関しては、横浜国立大学と連携し、調査・研究活動が進み、現状に応じて実践化を図る環境が整った。	B
教育環境整備	①職員室の情報機器を活用し、職員の情報共有化を図ります。②特別支援教室(ボラ級)の設置や図書室の放課後の活用の充実を行います。③正門にある劣化した壁面を新たに制作します。④校内の掲示物等を生徒会と連携しながら見直します。	①多忙化解消の観点から、ミラ임をはじめ、情報機器の活用が進み、業務改善が進んだ。②施設環境については、車いす対応のスロープや教育相談室の整備など、生徒の実態を踏まえ優先が高い施設から改善を図った。③校地整備に関しても、樹木の伐採や除草などを計画的に進め、地域から高い評価を得た。	A
地域連携	①PTAと学校地域コーディネーターの協力を得て「ふれあい祭り」の工夫・拡充を図ります。②同窓会の協力を得て職場体験の事業所の開拓を図ります。③地域防災拠点として、避難所等における中学生の人的資源を模索します。	①PTA「ふれあい祭り」など、昨年度までの取組を見直し、より効率的な改善を図り成果を上げた。③地域防災訓練については、生徒にボランティアを募り、教員と共に参加。その結果、訓練内容の改善が図られ、次年度から現実的に即した防災訓練が行われることとなった。	A
人材育成・組織運営	①基本的には、OJTで人材育成を行います。②メンターチームの研修を今後も継続して経験の浅い職員を育成を図ります。③外部指導者を積極的に活用し、研究授業、校内研修を意図的、計画的に実施しながら、教師力の向上を目指します。④各グループリーダー・サブリーダーの下、組織の活性化を図り、チーム力を高めます。	①三年次研修や人材育成マネジメント研修を中心に、校内の人材育成を計画的に進めた。特に授業研究については、学年や教科の枠を超えて教職員が参加するなど、新学習指導要領を視野に入れた取り組みができたことは今後につながる。また、多忙化解消プロジェクトの取組も人材育成の観点から有効であった。	A
いじめへの対応	①誰もが安心して豊かに過ごせる学校づくりを推進します。②いじめの定義や法の理解と共に、いじめを見抜く教師力の向上と支援体制を構築します。	①研修等の機会を計画的に設け、まず教師が自らの人権意識を振り返る機会を大切にしたい。さらに、道徳等授業をとおして、生徒自身が考える場面を設定した。②全職員対象にいじめ問題についての研修会を実施した。	B
ブロック内相互評価後の気付き	ブロック内小中学校で公開授業を実施し、小中一貫教育について情報交換を行った。現状として、相互の取組についての相互理解は深まったものの、小中一貫教育のレベルまでには至っておらず、今後の取組について課題が明確となった。具体的には、新学習指導要領の趣旨を踏まえ「主体的、対話で深い学び」を実践するため、次年度は、小中の縦のキャリアマネジメントと教科横断的な横のキャリアマネジメントの両方を視野に入れた取組が必要であることが明確となった。		
学校関係者評価	学校全体の雰囲気は落ち着いている。3.学年とも授業態度も良く、集中して学習に取り組むことができる。現在の授業態度を積極的に生かすことで、さらに生徒の学力を伸ばすことができるのではないかと。体育大会や文化祭合唱コンクールなどにおいても全力で取り組む姿勢がみられた。素直な気持ちを大事にしたい。生徒会が中心となり「あいさつ運動」を継続的にを行い、着実に成果を上げている。地域においても自分から挨拶できる生徒が増えている。地域防災訓練にボランティアの中学生が参加し、大きな力を発揮した。今後の取組に期待したい。		

学校経営中期取組目標振り返り	・小中一貫教育の取組について、生徒・教職員の交流レベルに止まっている。今後、小中一貫教育の具現化に向けた取組をさらに進めていく必要がある。具体的には、相互に授業公開を行うだけではなく、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、これからの時代が求める資質能力を育むための授業づくりや、小中一貫のキャリアマネジメントなど、より実践的な取組を進めていく必要がある。その原動力として、次年度から設置する学校運営協議会の機能に期待したい。
----------------	--

重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①校内授業研や小中一貫教育推進ブロックにおいて積極的に授業公開し、「分ける授業」を目指します。②第3学年全体を少人数学級にして、より個に応じた授業を展開します。③学期末に生徒による授業評価を実施し、集計結果をもとにしながら授業改善を行います。	①全教員が一丸をこめて取り組む授業研究会を実施し、資質・能力の育成を基盤とする授業展開を推進した。②今年度卒業した第3学年で継続して少人数学級を行い、全国学力状況調査で全国平均を5P以上上回る結果を得た。③授業アンケート内容を覚える学力から「考える学力」を問うものに変え、生徒の資質・能力の育成に還元できる授業改善を推進した。	A
豊かな心	①子ども会議のテーマを基に人権について話し合い、いじめのない学校を目指します。②地域行事への参加率を上げ、保護者・地域等様々な方々と積極的にふれあう機会を設けます。③校内外で気持ちのよい挨拶ができるよう、生徒会を中心にあいさつ運動を行います。	①前年度同様、生徒会が中心となって健全な生徒集団が形成されており、いじめと思われる事案は減っている。ただし、教員の連絡体制の強化など引き続きの努力が必要である。②ジュニアリーダー制度を活用し、地域祭りに生徒がボランティアとして関わり、多様な価値観を身に付ける機会が得られた。③全体的に自発的な挨拶は浸透してきたものの、来校者から「挨拶が丁寧だ」という声も聞かれた。	B
健やかな体	①新体力テストの結果を基に、体力向上に向けて生徒一人ひとりの目標を定め、実践します。②一校一実践運動では日々の部活動や体育大会での演技を通して、体力の向上を図ります。③学校保健委員会(PTA学習会)等において、健康の保持増進に関する取組を行います。	①日々の体育の授業や部活動等では、子どもたちの状況に応じて目標設定を行い実践した。②体育大会では演技の精選を行い、より効果的・効率的に体力向上を図る活動になるよう工夫した。③養護教諭を中心とする学校保健委員会の取組により、日常的に健康の保持増進を推進した。	B
教育課程	①教育課程委員会において、すべての教育活動の点検見直しを行います。②特に、宿泊行事の振り返りを行い、次期3年間を見通した取組を行います。③教科指導における主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)の研修を行い授業効果をさらに高めます。④今年度の本校のキーワードは「アクティブラーニングとグローバルスタンダード」の2つを掲げ、取り組んできた。	①9年間で育てる子ども像を再考し、小中一貫した取組を推進した。横浜の時間では、防災教育や横浜についての学習を行い、社会に開かれた教育課程を推進した。②1年生では日本丸での体験活動を実施し、2・3年生では道志村と奈良・京都の事前学習を実施した。③研修会や授業研究会を充実させ、資質・能力を育成するための「主体的・対話的で深い学び」を推進した。	A
特別支援教育	①特別支援教育委員会の定期開催と内容の充実を図り、配慮を要する生徒に対する理解を深めます。②カウンセラーや区役所等の関係機関と定期的な連絡を取りながら、適切な支援方法を探ります。③ユニバーサルデザインに関する研修を行い、職員での理解を深め実行します。	①前年度再構築した支援体制が機能し、特に障がいをもった生徒への支援を横浜国立大学と協働して行った。②前年度に引き続き、外部機関と連携した専門性のある支援体制が組み立てられた。③横浜国立大学と協働し、ユニバーサルデザインを推進した上でインクルーシブ教育を行った。	A
教育環境整備	①職員室の情報機器を活用し、職員の情報共有化を図ります。②特別支援教室(ボラ級)の設置や図書室の放課後の活用の充実を行います。③正門にある劣化した壁面を新たに制作します。④校内の掲示物等を生徒会と連携しながら見直します。	①ミラ임やNASを活用して安定した情報共有を行った。②特別支援教室(ボラ級)を計画的に運営し、放課後は学年教室を使って学習会を行った。③併設型小中学校や義務教育学校も視野に入れ、立野小との間に遊歩道を作り、防災用の井戸を掘った。④広報委員会が主体となって掲示物の張替を定期的に行なった。	A
地域連携	①PTAと学校地域コーディネーターの協力を得て「ふれあい祭り」の工夫・拡充を図ります。②同窓会の協力を得て職場体験の事業所の開拓を図ります。③地域防災拠点として、避難所等における中学生の人的資源を模索します。	①昨年度の見直し踏まえて、効率的で効果的な活動を行い成果を上げた。②JICA等の新規開拓を行い、職場体験の事業所の開拓を図った。③小中合同での地域防災訓練を実施し、中学生の地域における人的資源を明確にした。	A
人材育成・組織運営	①基本的には、OJTで人材育成を行います。②メンターチームの研修を今後も継続して経験の浅い職員を育成を図ります。③外部指導者を積極的に活用し、研究授業、校内研修を意図的、計画的に実施しながら、教師力の向上を目指します。④各グループリーダー・サブリーダーの下、組織の活性化を図り、チーム力を高めます。	①昨年度より行ってきた新学習指導要領全面実施にむけた取組をより一層推進した。特に研修会や授業研究会は充実している。②3人の初任者を中心にメンターチームを活用して人材育成を有効的に行なった。③研修会や授業研究会では外部指導者を招き、質の高い取組が行った。④ドリルリーダーが組織の活性化を図り、チーム力を向上させた。	A
いじめへの対応	①誰もが安心して豊かに過ごせる学校づくりを推進します。②いじめの定義や法の理解と共に、いじめを見抜く教師力の向上と支援体制を構築します。	①研修等の機会を計画的に設け、まず教師が自らの人権意識を振り返る機会を大切にしたい。さらに、道徳等授業をとおして、生徒自身が考える場面を設定した。②全職員対象にいじめ問題についての研修会を実施した。	B
ブロック内相互評価後の気付き	小中一貫教育全体会や小中交流日を有効的に活用し、9年間で育てる子ども像を再考した。さらに、育成する資質・能力の重点目標を定め、成長段階指標を作成した。着実に小中の縦のキャリアマネジメント・マネジメントと教科横断的な横のキャリアマネジメントは推進しており、次年度はこれらの取組について、さらに全職員一丸となって、質の高めていく。		
学校関係者評価	継続して学校全体の雰囲気は落ち着いている。集中して学習に取り組む環境が整っている。自ら律し自立した生徒が一層育つよう、生徒会活動や学校行事のさらなる充実とともに、各教科等の授業が資質・能力を基盤とするものになるように期待したい。自発的な挨拶がよりできるとなるとよい。小中合同での地域防災訓練を実施し、中学生の力を実感した。中学生を地域の人財として評価したい。		

学校経営中期取組目標振り返り	・小中一貫教育の取組について、生徒・教職員の交流レベルから、9年間で育てる子ども像を小中合同で再考し、協働して児童生徒の資質・能力を育成する段階までできた。学校運営協議会を年3回実施し、専門性の高い知見を活かしてブロックとしての教育の方向性を定めた。次年度は、新学習指導要領の趣旨をさらに踏まえ、目標の設定等を刷新し、社会に開かれた教育課程の実現を目指して、児童生徒の資質・能力の育成を主眼においた取組を一層推進したい。
----------------	--